

表3. 手術・侵襲的検査における休薬期間の院内指針

薬効分類	一般名	薬品名				手術・侵襲的検査における休薬期間		
						出血リスク高	出血リスク低	
血小板凝集抑制剤 (抗血小板剤)	アスピリン	先発品	アスピリン	バファリン配合錠A330(2022/3/31経過措置満了)		7日前より休薬	継続	
		後発品	バイアスピリン バツサミンA81 イスキアA330	バファリンA81 ファモターA81 ニトギスA81	アスピリン腸溶錠 アスファネートA81 ゼンアスピリン			
	アスピリン配合製剤	先発品		タケルダ配合錠 (アスピリン/ランソプラゾール)	キャブピリン配合錠 (アスピリン/タケキャブ)			
				コンプラビン配合錠 (アスピリン/クロピドグレル)			14日前より休薬	5日前より休薬
	チクロピジン	先発品	パナルジン			14日前より休薬	遅くとも7日前より休薬	
		後発品	チクロピジン	マイトジン				
	クロピドグレル	先発品	プラビックス	コンプラビン配合錠		14日前より休薬	5日前より休薬	
		後発品	クロピドグレル					
	プラスグレル	先発品	エフィエント			14日前より休薬	7日前より休薬	
		後発品	-					
	チカグレロル	先発品	ブリリント			5日前より休薬	3日前より休薬	
		後発品	-					
	シロスタゾール	先発品	プレタール			3日前より休薬	2日前より休薬	
		後発品	シロスタゾール ホルダゾール	プレトモール コートリズム	シロスレット シロシナミン			
リマプロスト アルファデクス	先発品	オパルモン	プロレナール		2日前より休薬	1日前より休薬		
	後発品	リマプロストアルファデクス						
サルポグレラート	先発品	アンプラーグ			1~2日前より休薬			
	後発品	サルポグレラート						
ベラプロスト	先発品	ドルナー ベラサスLA(肺高血圧)	プロサイリン ケアロードLA(肺高血圧)		1~2日前より休薬			
	後発品	ベラプロスト						
抗凝固剤	ワルファリンカリウム	先発品	ワーファリン	ワルファリンK	術前4日前に中止。 血栓リスクが高い場合は ヘパリン置換開始	PT-INRが治療域にあ れば継続		
		後発品	ワルファリンK(細粒)					
直接トロンビン 阻害剤	ダビガトラン エテキシラート	先発品	プラザキサ		2~4日前より休薬 (CCr≥50) 4日前より休薬 (CCr<50)	1日前より休薬 (Ccr≥50) 2日前より休薬 (Ccr<50)		
		後発品	-					
第Xa因子阻害剤	エドキサバン	先発品	リクシアナ		1~2日前より休薬			
		後発品	-					
	リバーロキサバン	先発品	イグザレルト		1~2日前より休薬			
		後発品	-					
	アピキサバン	先発品	エリキュース		1~2日前より休薬			
		後発品	-					
高脂血症薬 (EPA・DHA製剤)	オメガ-3脂肪酸 エチル	先発品	ロトリガ		7~10日前より休薬			
後発品	-							
閉塞性動脈硬化症 高脂血症薬 (EPA製剤)	イコサペント酸エチル	先発品	エパデール		7~10日前より休薬			
		後発品	イコサペント酸エチル エパキャップソフト、メルブラール(2020/9/30経過措置満了)	エパラ エパロース				
脳循環 代謝改善薬	イフェンプロジル	先発品	セロクラール		2~3日前より休薬			
		後発品	イフェンプロジル					
	イブジラスト	先発品	ケタス		2日前より休薬			
		後発品	-					
	ニセルゴリン	先発品	サアミオン		2日前より休薬			
		後発品	ニセルゴリン					
冠血管拡張薬	ジピリダモール	先発品	ペルサンチン		1日前より休薬			
		後発品	ジピリダモール	ヨウリダモール				
	ジラゼプ	先発品	コメリアン		2日前より休薬			
		後発品	ジラゼプ					
	トラピジル	先発品	ロコルナール		2日前より休薬			
		後発品	トラピジル					
	トリメタジジン	先発品	パスタレルF		2日前より休薬			
		後発品	-					
TXA2阻害作用の 気管支喘息薬	オザグレル	先発品	ドメナン		1~2日前より休薬			
		後発品	オザグレル					
中止および再開について		<p>注:このガイドラインはあくまでも一般的、標準的なものであるため、個々の症例で休薬およびヘパリン置換を行うかについては、症例ごとの病状・病態の重症度を検討した上で、担当医・主治医が最終的に判断するものとする。 中等度出血リスク手技では、血栓性イベントのリスクを勘案して休薬期間を判断する。</p>				治療後は食事開始後再開。ただし出血例は除く。出血傾向がある場合は慎重に。		

女性ホルモン製剤

薬効分類		薬品名	一般名	休薬期間	添付文書上の休薬に関する記載
卵胞・黄体ホルモン配合剤	経口避妊剤 (低用量ピル)	アンジュ21錠/28錠 トリキュラー21錠/28錠 ラベルフィーユ21錠/28錠	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	4週間前より休薬 術後2週間 産後4週間	【禁忌】 手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内及び長期間安静状態の患者 【重要な基本的注意】 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること
		ファボワール錠21/28 マーベロン21/28	デソゲストレル・エチニルエストラジオール		
		シンフェーズT28錠	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール		
	月経困難症	ジェミーナ配合錠	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	4週間前より休薬 術後2週間 産後4週間	【禁忌】 手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内及び長期間安静状態の患者 【重要な基本的注意】 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること
		フリウエル配合錠LD/ULD ルナベル配合錠LD/ULD	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール		
		ヤーズ配合錠 ヤーズフレックス配合錠	ドロスピレノン・エチニルエストラジオール		
	閉経後骨粗鬆症 子宮内膜症等	ウェールナラ配合錠 プラノバル配合錠 -	エストラジオール・レボノルゲストレル ノルゲストレル・エチニルエストラジオール -	医師の指示	【重要な基本的注意】 血栓症のリスクが高まる状態：体を動かさない状態等が認められる場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと 【慎重投与】 術前又は長期臥床状態の患者
	更年期症状	メノエイドコンビパッチ	エストラジオール・酢酸ノルエチステロン		
	卵胞ホルモン製剤	ジュリナ錠 エストラーナテープ ディビゲル	エストラジオール	医師の指示	【重要な基本的注意】 血栓症のリスクが高まる状態：体を動かさない状態等が認められる場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと 【慎重投与】 術前又は長期臥床状態の患者
		エストリール錠 ホーリン錠	エストリオール		
プレマリン錠		結合型エストロゲン			
黄体ホルモン製剤	ヒスロンH錠200mg ヒスロン錠5mg	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	医師の指示 (術後指示)	【禁忌】 手術後1週間以内の患者 【慎重投与】 手術後1ヶ月以内の患者	
エストロゲン受容体修飾薬 (閉経後骨粗鬆症)	ビビアント錠	バゼドキシフェン	医師の指示	【禁忌】 長期不動状態にある患者 (術後回復期、長期安静期等) 【慎重投与】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る前に本剤の投与を中止し、完全に歩行可能になるまでは投与を再開しないこと	
	エビスタ錠	ラロキシフェン	3日前から休薬	【禁忌】 長期不動状態にある患者 (術後回復期、長期安静期等) 【慎重投与】 手術後1ヶ月以内の患者 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る3日前には本剤の投与を中止し、完全に歩行可能になるまでは投与を再開しないこと	
中止および再開について	<p>◇女性ホルモン製剤には、卵胞ホルモン(エストロゲン)、黄体ホルモン製剤(プロゲステロン)製剤、卵胞・黄体ホルモン配合剤などがあり、重大な副作用に血栓症があります。</p> <p>◇低用量ピルをはじめとする卵胞・黄体ホルモン配合剤は、添付文書の「禁忌」に、「手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内および長期間安静状態の患者[血液凝固能が亢進され心血管系の副作用の危険性が高くなる可能性がある]」と記載されています。</p> <p>◇休薬期間に関しては、各薬剤の添付文書上の術前休薬に関する記載を参考とした日数としています。患者毎に血栓症のリスクを考慮して、妥当性のある休薬の有無とその期間を決定してください。</p> <p>◇本一覧に記載されていない薬剤に関しては一般名を参照の上、休薬の有無とその期間を決定してください。</p>				